

前回の見解（20200208）にある通り、私は、ロームシアター京都の企画「レパートリーの創造」において依頼されていた「シーサイドタウン」という上演作品のクリエイションの継続を留保しておりましたが、今年、3月19日に三浦氏の館長就任が一年延期されたことが発表されたことをもって、今回の上演の創作活動を継続することとしました。

この発表文には、「京都市・音楽芸術文化振興財団・三浦氏の三者で、ロームシアター京都スタッフの意見も聞きながら、協議した結果、信頼回復に向けた取組を確実に実施する」ことが延期の理由であると記載されています。

レパートリーの創造という企画は、今年の上演のみではなく、複数年度に渡って再演を試みるものでもあります。今後のロームシアター京都の信頼回復の取り組みが不十分だと判断した場合は、次年度（2021年度）以降の創作活動や戯曲の上演権の見直しを検討することも考えたいと思います。

私は、今後の三者における「取組」が舞台芸術の展望を開く機会になることを願っています。